保証書

持込修理　無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
2. 保証期間中でも次の場合には有料修理となります。
   （イ）使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造等による故障及び損傷
   （ロ）お買い上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
   （ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛り等による故障及び損傷
   （ニ）消耗または摩耗した部品、付属品の交換
   （ホ）本書のご提示がない場合
   （ヘ）本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合
   　（但し、販売シールや領収証でも未記入項目の代用となります。）
   （ト）本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
   （チ）一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
3. ご贈答、ご転居等で本保証書に記入のお買上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
5. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	ステレオCDラジオカセットレコーダー			★お買上日：　　年　　月　　日
型　番	RCD-770K-W RCD-770K-A RCD-770K-P	品　番	07-5775 07-5776 07-5777	保証期間：本体1年間（お買上げの日から）
お客様	★お名前　　　　様			
	★ご住所　〒　　ー 電話　（　　）			

修理メモ

販売店	★住所　店名　電話　　　印

(注)★印欄に記入の無い場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

OHM　株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
http://www.ohm-electric.co.jp

製品に関するお問い合わせは　**お客様相談室** へ
●フリーダイヤル（無料）　●携帯電話・公衆電話からは
0120-963-006　048-992-2735
電話受付　平日 9：00～17：30　土曜 9：00～17：00
日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は　**修理ご相談センター**へ
電話受付　048-992-3970　平日 9：00～17：00
土・日・祝日及び年末年始は除きます

07-5775/6/7B

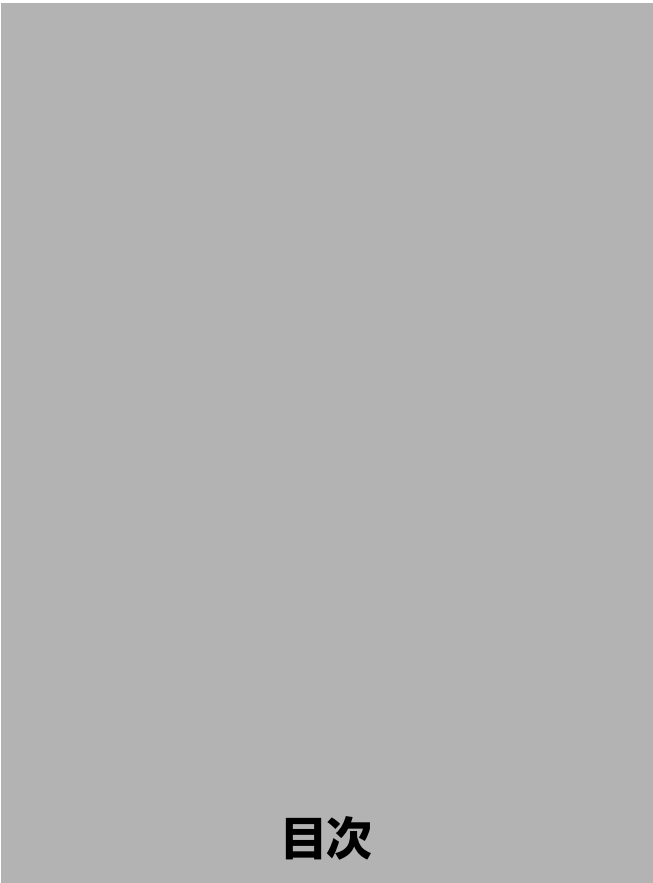
AudioComm®

取扱説明書 保証書付

ステレオCDラジオカセットレコーダー

型番： RCD-770K-W
RCD-770K-A
RCD-770K-P

このたびは、AudioComm® ステレオCDラジオカセットレコーダーをお買い上げいただき誠にありがとうございました。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。**"この取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全にご使用ください。"** なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますよう大切に保存してください。

目次

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、この「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから、本文をお読みください。

危険	この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡や大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
警告	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけががをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は感電注意が描かれています。）
	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。（左図の場合は分解禁止が描かれています。）
	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く、が描かれています。）

※この製品の故障、誤動作、不具合などによって発生した次にあげる損害などの附随的損害補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
●お客様または第三者がテープへ記録された内容の損害
●録音、再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

⚠ 警　告

異常の時に コンセントを抜く	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因になります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。
水が入った場合は コンセントを抜く	●万一内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
コンセントを抜く	●万一機器の内部に異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
分解禁止	●本体を修理、改造しないでください。 火災・感電の原因となります。
禁止	●この機器を使用できるのは日本国内のみです。 自動車・船舶などの直流DC電源には接続しないでください。 火災の原因となります。
コードを交換する	●電源コードが痛んだら（芯線の露出、断線など）使用を中止し、修理をご依頼ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
水かけ禁止	●浴室やシャワー室では使用しない 浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しないでください。 （火災や感電の危険があります。）
接触禁止 感電に注意	●雷が鳴り始めたら、安全のため電源プラグを抜いてください。
禁止	●表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。 火災・感電の原因となります。
電池に注意	●本体に使用している乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が乾電池を誤って飲み込むことがないようにしてください。 乾電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。 万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。
禁止	●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本体の下敷きにならないようにしてください。 コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。 コードの上に敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものをのせてしまうことがあります。
禁止	●付属の電源コード（ACコード）は本製品専用です。本製品をご使用の際には必ず付属の電源コード（ACコード）をお使いください。また、付属の電源コード（ACコード）は絶対に他の製品には使用しないでください。 製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。
禁止	●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

⚠ 注　意

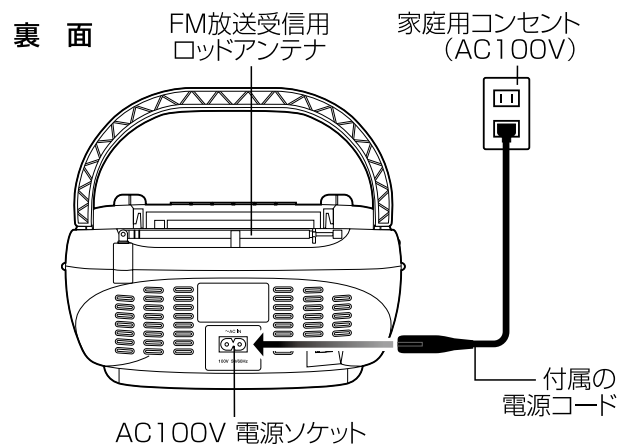
禁止	●調理台や加湿器のそばなど湯煙や湿気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
音量は小さく	●電源を入れる前には、音量ボリュームを最小にしてください。 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
乾電池の電極性に注意	●乾電池を機器内に挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通り正しく入れてください。間違えると乾電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
禁止	●指定以外の乾電池は使用しないでください。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
コンセントを抜く	●お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜き、乾電池を取り外してください。 感電の原因となることがあります。
禁止	●CDプレーヤーのピックアップレンズをのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。
禁止	●濡れた手で電源プラグを抜き差しないでください。感電の原因になることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
コンセントを抜く	●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、ヘッドホンを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
アンテナに注意	●持ち運びするときは、アンテナを折り畳んでください。伸ばしたまま持ち運びするとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどしてけがの原因になることがあります。
指を挟まれないように注意	●お子様が、カセットテープ挿入口に手を入れないようにご注意ください。 けがの原因となることがあります。
音量に注意	●ヘッドホンをご使用になる時には、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
コンセントを抜く	●旅行などで長時間本機をご使用にならないときは、安全のために必ず、電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外してください。火災、液もれの原因となることがあります。
禁止	●電磁波を発生させる機器（携帯電話、テレビ、モニター等）に近付けないでください。電磁波により、お互いの機器が干渉しノイズや混信の原因となります。

電源について

家庭用電源で使う場合

付属の電源コードで本体のAC100V用電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

◆電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り替わります。

◆本機を使用しないときは電源コードをコンセントからはずして下さい。

乾電池で使う場合

◆アルカリ乾電池のご使用をお薦めします。

◆電池ぶたをはずし乾電池の⊕と⊖を間違えないように、単1形乾電池6本を入れます。

※大切な録音をするときやCDの演奏を聴くときは、付属の電源コードを使用してください。

乾電池の入れ方

本体底部の電池ぶたの「OPEN」部を押しながら矢印の方向にスライドさせ、開けてください。

乾電池の向きに注意して図のように正しく入れてください。コイルばねのあるほうがマイナス側です。

※付属の電源コード(ACコード)は本製品専用です。本製品をご使用の際には必ず付属の電源コード(ACコード)をお使いください。また、付属の電源コード(ACコード)は絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

乾電池にてご使用時のご注意

・CDを再生するには十分な電力が必要です。したがって乾電池にてご使用中にCDの動作に異常が生じた場合、直ちに製品の故障と判断せず、AC電源（家庭用電源 AC100V）にてお試しください。

・ACにて動作が正常な場合、ご使用中の乾電池が消耗してしまった可能性がありますので、全て新しい乾電池に交換してご使用ください。

・場合によっては、ご使用中の乾電池が消耗していても、ラジオは正常にはたらく場合がありますのでご注意ください。ラジオは電力消費が少なく、乾電池の残留電力が少量でも作動する場合があります。

・本機を使わないとき、乾電池の消耗を避けるためファンクションスイッチを"テープ［電源切］"にしてください。

乾電池についての安全上のご注意

使い方を誤ると、液漏れ、発熱、発火、破裂などにより、やけどや大けが、失明の原因になります。

⚠ 警告

・乾電池が液もれしたとき
液が本体内部に残ることがあるため、弊社修理係にご相談ください。液が目に入ったときは、失明の原因となる恐れがありますので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談してください。

・機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
・充電しない。
・火の中に入れない。
・ショートさせたり、分解、加熱しない。
・火のそばや直接日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
・水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。

⚠ 注意

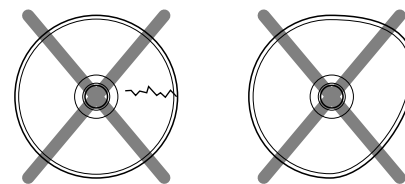
・使いきった電池は取り外す。長時間使用しないときや、長時間ACで使用するときも取り外す。
・新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。

使用済み電池を廃棄するとき
使用済みの電池に関して、自治体の条例などで決まりがある場合には、それに従って廃棄してください。

ご使用になる前に（CDについて）

結露について

寒いところから急に暖かい所に移動させると、レンズに水滴がついたり、くもったりする結露現象が起こります。この状態でご使用になると、正しく動作しないことがあります。このようなときはディスクを取り出して、数分間放置してください。結露が取り除かれて正常に動作するようになります。

ディスク使用上での注意点

ひびやそりのあるディスクは絶対に使わないで下さい。

◆再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや割れや変形したディスク、またはテープや接着剤で補修したディスクなどは危険ですから絶対に使用しないで下さい。

◆ディスクに

のマークが入ったものをご使用ください。

◆現在発売されています「コピーコントロールCD」と呼ばれる著作権保護技術付音楽ディスクは、コンパクトディスク（CD）規格に準拠しない特殊ディスクであり、本製品における再生にあたりましては、動作や音質の保証は致しかねます。
音楽ディスクパッケージの表示をよくお読みください。

なお、「コピーコントロールCD」の詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせ下さいますよう、お願い申し上げます。

コピーコントロールCDのマーク

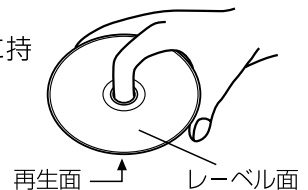
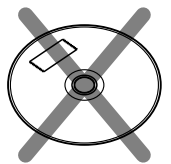
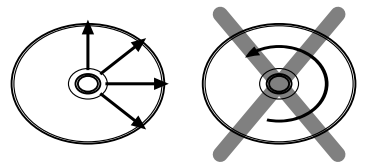
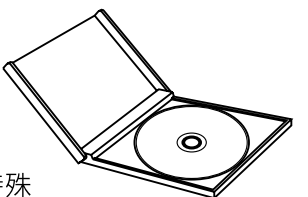
◆本機はCD-R/RWの再生に対応しています。

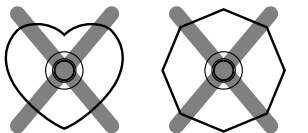
ご注意

CD-R/RWディスク、レコーダー、書き込みソフトウェアの種類・状態によっては再生できなかったり、ノイズ、音飛びが生じる場合があります。

・ファイナライズ処理のされていないディスクは再生できません。
・CD-R/RWの文字情報（CD TEXT）は「半角英数（1バイト文字）」に統一してください。

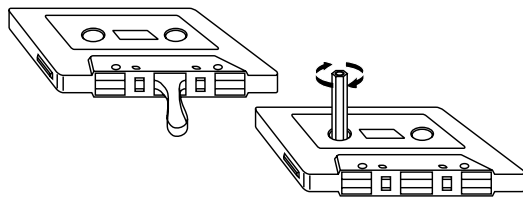
ディスク取扱上の注意

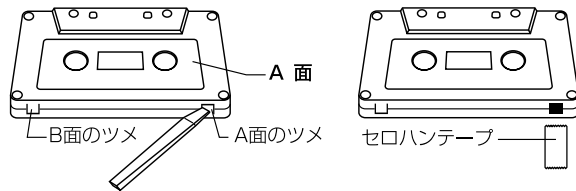
◆再生面を触れないように持ってください。

◆再生面はもちろん、レーベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。

◆ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。

◆長い時間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保存してください。

ご注意

ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは使用しないで下さい。機器の故障の原因となります。

ご使用になる前に（カセットテープについて）

カセットテープの取扱について

◆テープのたるみは、テープのまきつきや、切断の原因になります。

◆テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいるようなら図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。

大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合には、カセットのうしろ側にある"ツメ"を折っておくとまちがって大切な録音テープを消去せずにすみます。また、ふたたび録音したい時は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。

◆ツメを折ってあるテープは、録音ボタンの操作ができません。無理に押したりすると故障する場合もあります。

◆ノーマルテープ（Type I）をお使いください。ハイポジションテープ（Type II）や、メタルテープ（Type IV）には録音できません。ノーマルテープにおきましても、C-90（90分テープ）までのテープを使用してください。それを超える長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれる等のテープトラブルの原因となりかねませんので、ご使用はお薦めできません。

◆エンドレステープは使用できません。

カセットテープについて

◆カセットテープの両端のリーダーテープ部分は録音ができません。録音前にはこの部分を送っておきましょう。

◆カセットテープを入れたままにしたり、再生／録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるのでからみや巻き付きの原因となります。テープは必ず抜いて保管してください。

◆テープの損傷を避けるため大事なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

ヘッドホンの使用

●ヘッドホンで聴くときは、別売のステレオヘッドホン（φ3.5mmステレオミニプラグ）をヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐとスピーカーからの音は聴こえなくなります。

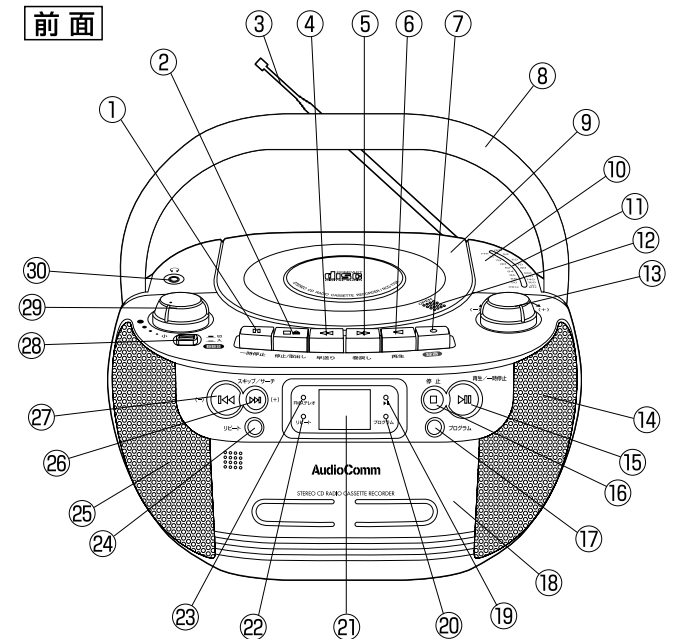
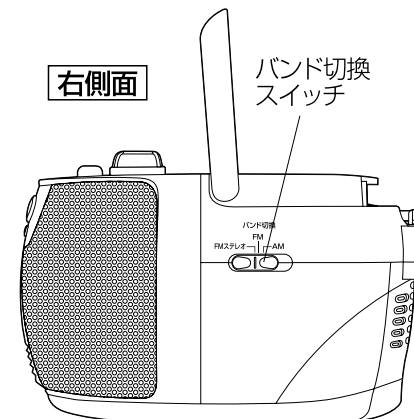
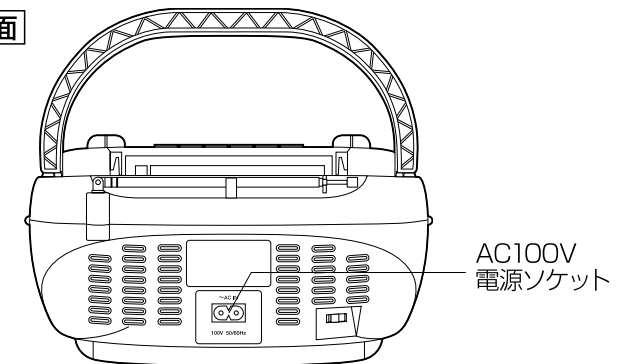
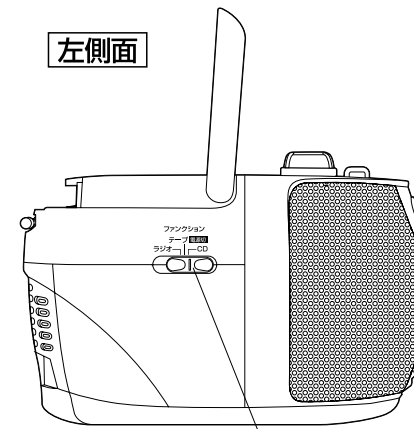
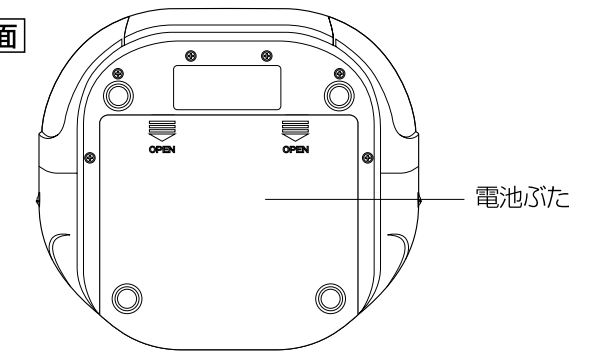
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

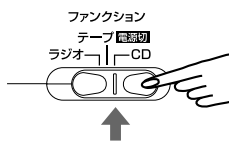
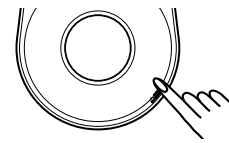
●家庭用コンセントでご使用時、ヘッドホンでお聴きになると、ハム音（ラジオなどの音声に混じって聞こえる「ブーン」という音）が耳障りになる時があります。その場合は乾電池にてご使用になられるようお願いいたします。

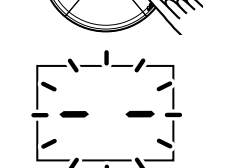
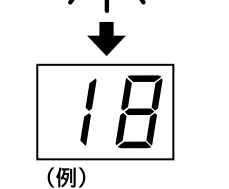
BBS（低音強調）機能について

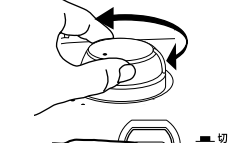
BBS(低音強調)ボタンを押すと、低音部が増強されます。したがって音量調整ツマミの位置を80%以上に上げてこの機能を使用しますと低音部に出力歪みを生ずる場合があります。この歪み現象は、スピーカーから出る音質の透明性を欠くことになり、ややこもった音色になる場合があります。
以上のことから、重低音機能をご使用の際は、音量調整ツマミの位置を70%以下に下げた状態で使用されることをお勧めします。

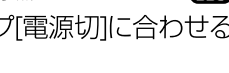
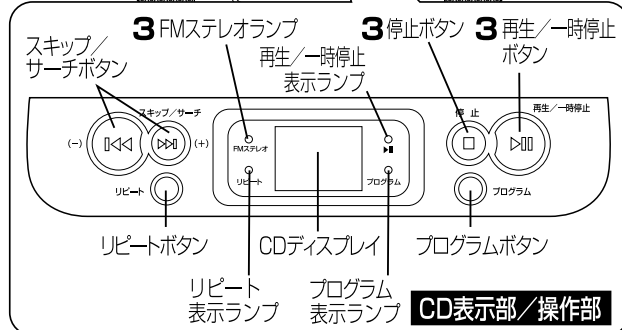
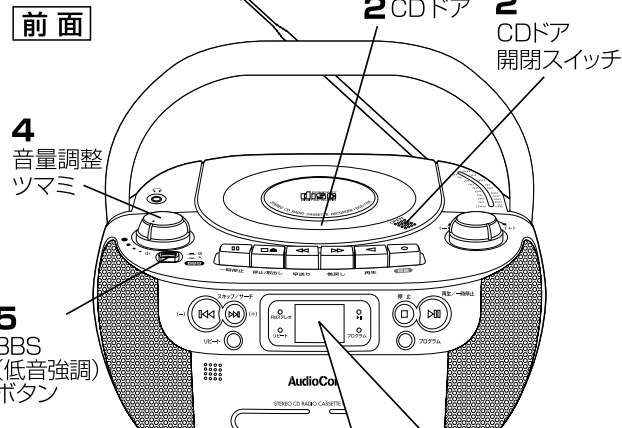
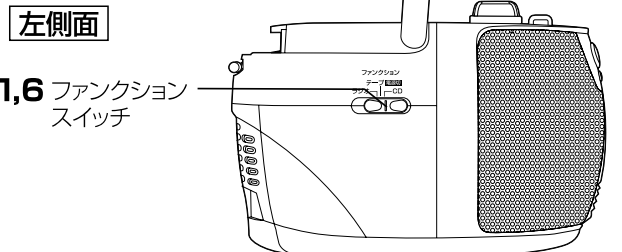
各部の名称

①一時停止ボタン（カセット）
②停止／取出しボタン（カセット）
③ロッドアンテナ
④早送りボタン（カセット）
⑤巻戻しボタン（カセット）
⑥再生ボタン（カセット）
⑦録音ボタン（カセット）
⑧ハンドル
⑨CDドア
⑩ダイヤル選局目盛り
⑪指針
⑫CDドア開閉スイッチ
⑬選局ツマミ
⑭右スピーカー
⑮再生／一時停止ボタン(CD)
⑯停止ボタン（CD）
⑰プログラムボタン（CD）
⑱カセットドア
⑲再生／一時停止表示ランプ
⑳プログラム表示ランプ(CD)
㉑CDディスプレイ
㉒リピート表示ランプ（CD）
㉓FMステレオランプ
㉔リピートボタン（CD）
㉕左スピーカー
㉖スキップ／サーチ（ ▶▶I ）ボタン（CD）
㉗スキップ／サーチ（ I◀◀ ）ボタン（CD）
㉘BBS（低音強調）ボタン
㉙音量調整ツマミ
㉚ヘッドホンジャック

CDを聴くには

1 左側面にあるファンクションスイッチをCDの位置に合わせます。

2 ① CDドア開閉スイッチを押して、CDドアを開きます。
※ ハンドルは下ろした状態で、CDドア開閉スイッチを押してください。

② CDのレーベル面を上にして、中心軸にセットします。

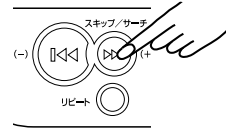
③ CDドア開閉スイッチを押し、ドアを閉めると、電源表示ランプが点灯し、CDディスプレイに数秒後、全曲数が表示されます。
※ CDディスプレイに「00」と表示された場合、CDドアが閉じていない可能性があります。完全に閉じてください。
※ CDディスプレイに「no」と表示された場合、ディスクが裏返し／不適切なディスクが入っている／ディスクが入っていない／のいずれかを表しています。適切なディスクをセットしてください。

3 再生／一時停止ボタンを押して演奏を開始します。CDディスプレイに再生中の曲番が表示され、再生／一時停止表示ランプが点灯します。
・再生中に再生／一時停止ボタンを押すと、演奏中の曲が一時停止します(この時、CDディスプレイに表示されている曲番と再生／一時停止表示ランプが点滅します)。もう一度押すと再生を開始します。
・停止ボタンを押すと演奏が停止し、CDディスプレイに全曲数が表示されます。

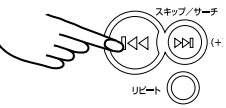
4 音量調整ツマミを回して、音量を調節します。

5 低音をより強調したい場合はBBS(低音強調)ボタンを押します。※P8 BBS(低音強調)機能について参照

6 ファンクションスイッチをテープ[電源切]に合わせると、電源が切れます。

再生中に曲を進めるには

◆再生中にスキップ／サーチ(▶▶I)を1回押すごとに先の曲に進みます。

◆再生中にスキップ／サーチ(▶▶I)を押し続けると、聴いている曲が早送りされます。

再生中に曲を戻すには

◆再生中にスキップ／サーチ(I◀◀)を1回押すとプレイ中の曲の頭に戻ります。1曲前に戻すには2回続けて押し、2曲前に戻すには3回続けて押してください。

◆再生中にスキップ／サーチ(I◀◀)を押し続けると、聴いている曲が早戻しされます。

いろいろなCDの聴き方

同じ曲を繰り返し聴くには

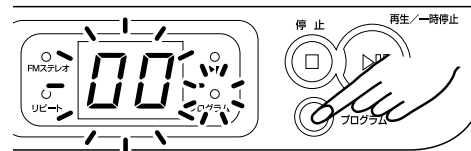
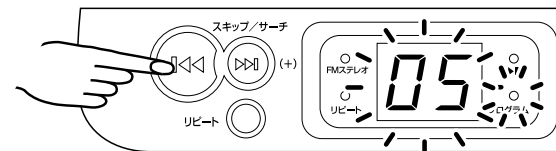
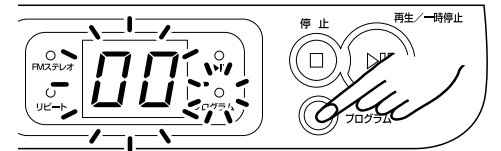
■1曲を繰り返し聴くには

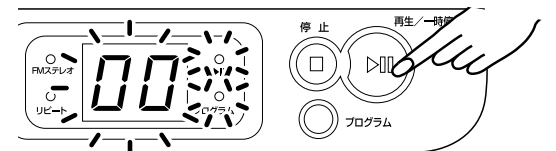
① 聴きたい曲を、スキップ/サーチ(▶▶I)またはスキップ/サーチ(I◀◀)ボタンを押して選びCDディスプレイに曲番を表示させます。
② リピートボタンを押すと、リピート表示ランプが点滅します。再生／一時停止ボタンを押すと、再生／一時停止表示ランプが点灯して再生が始まり、その曲が繰り返し再生されます。
※ 繰り返しを解除するには、リピートボタンを2回押します。(リピート表示ランプが消えます。)

■1枚のCD全曲を繰り返し聴くには

① リピートボタンを2回押すと、リピート表示ランプが点灯します。再生／一時停止ボタンを押すと、再生／一時停止表示ランプが点灯して再生が始まり、全曲繰り返し再生されます。
※ 繰り返しを解除するには、リピートボタンを再度押します。(リピート表示ランプが消えます。)

プログラム再生(CDの曲をならびかえて聴く)

1 停止状態より始めます。
プログラムボタンを押すと、CDディスプレイの表示が"01"と表示された後に"00"に変わります(プログラム表示ランプとともに点滅します)。

2 スキップ／サーチ(▶▶I)またはスキップ／サーチ(I◀◀)ボタンを押して、最初に聴きたい曲を選び、CDディスプレイに曲番を表示させます。

3 プログラムボタンを押すと、選んだ曲が記憶されます。続いてCDディスプレイに"02"と表示された後、再び"00"とプログラム表示ランプが点滅し、次の曲を選べるようになります。

4 2、3を繰り返し操作して、好きな曲を順番に記憶させます。(20曲まで記憶ができます。20曲プログラムされると、プログラムした順番に曲番が表示されます。)

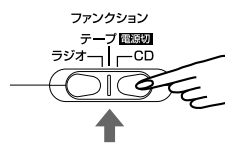
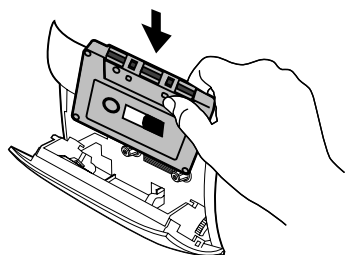
5 再生／一時停止ボタンを押すと、再生／一時停止表示ランプとともにプログラム表示ボタンが点灯し、プログラム再生がスタートします。
プログラムされた最後の曲が終わると、自動的に停止します。

6 プログラムを解除するには、停止ボタンを押してください。プログラム表示ランプが消え、再生も停止します。

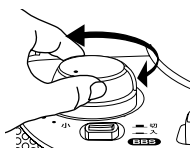
7 記憶させる曲の順番をやり直したい時は、一度プログラムを解除してから再度操作を行ってください。

8 繰り返し機能を併用するとプログラム再生を繰り返し聴くことができます。

※再生中にプログラム再生の設定を開始した場合や、一度再生してそのままセットされ続けたCDでプログラム設定をした場合、曲番登録をする際にCDディスプレイに表示される曲番号が"00"ではないことがあります。その場合は、スキップ／サーチボタン(▶▶I ／ I◀◀)で登録したい曲番号をその都度選んでください。

テープを聴くには

1 左側面にあるファンクションスイッチをテープ[電源切]の位置に合わせます。

2 停止／取出しボタン（■▲）を押して、カセットドアを開け、テープ面を上にしてカセットを入れます。

3 カセットドアを閉じてから、再生ボタン（◀）を押します。

4 音量調整ツマミを回して、音量を調整します。

5 ・テープを止めるには、停止／取出しボタン（ ■▲ ）を押してください。

・テープを一時停止するには、一時停止ボタン（ II ）を押してください。再度押すとスタートします。

・テープを早送り、巻戻しするには、早送りボタン（◂◂）または巻戻しボタン（▸▸）を押してください。

※再生中にカセットドアを強引に開いたり、再生ボタンと巻戻し／早送りボタンを同時に押さないでください。テープ破損の原因となることがあります。

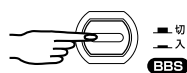
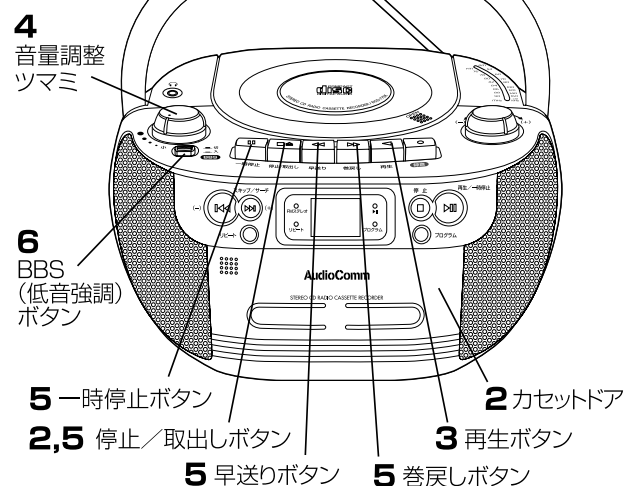
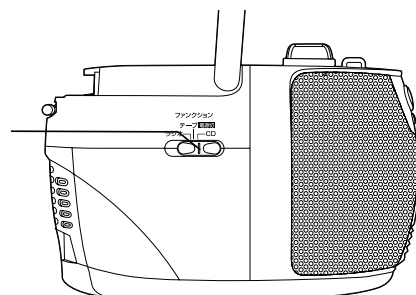
重 要

セミオートストップ機能

カセットの再生／録音時に、テープが最後まで行くと自動的に操作ボタンが上がり動作終了しますが、早送り／巻戻しでは自動的に動作終了しません。故障の原因となることがありますので、必ず停止ボタンで動作を終了させてください。

6 低音をより強調したい場合はBBS(低音強調)ボタンを押します。※P8 BBS(低音強調)機能について参照

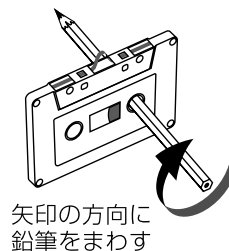
前 面

左側面

90分を超えるテープについて

90分をこえる長時間テープの使用は避けてください。他のカセットテープに比べて、非常に薄いため伸びたり、機械に巻き込まれたりしやすくなります。

カセットテープの取扱いかた

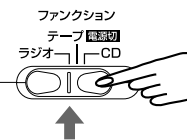
テープのたるみをとる

使用前にテープのたるみを取り除いてください。たるんでいるテープを使うと、テープが機械に巻き込まれて使えなくなることがあります。

矢印の方向に鉛筆をまわす

ご使用になれるテープ

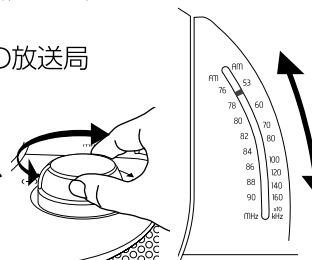
本機でお使いになれるテープはノーマルテープです。メタルテープやクロムテープは性能が十分発揮できません。

ラジオを聴くには

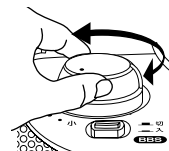
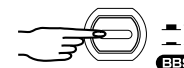
1 左側面にあるファンクションスイッチでラジオを選びます。

2 右側面にあるバンド切換スイッチで、AM、FMまたはFMステレオを選びます。

※バンド切換スイッチは、各バンドの中間に止まらないよう確実に切換えてください。

3 選局ツマミでお好みの放送局を選びます。

※右側に回すと受信周波数は高くなり、左側に回すと受信周波数は低くなります。

※2でFMステレオを選択時、FM放送を受信すると、FMステレオランプが点灯します。

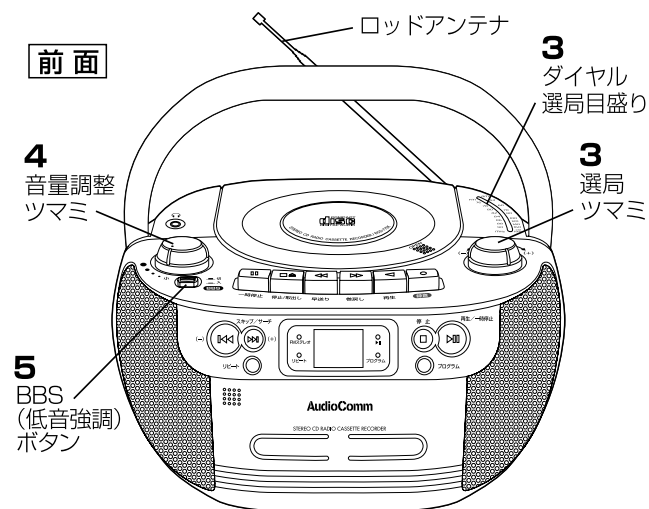
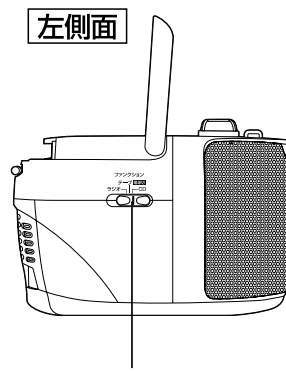
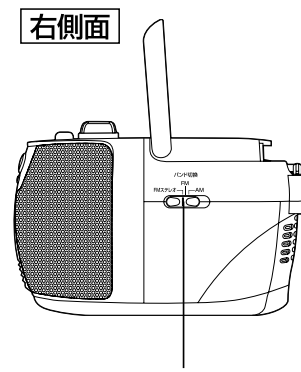
※FMステレオ時に雑音等が発生する場合は、FMに切換えてみてください(ステレオ放送ではなくなりますが、雑音が軽減される場合があります)。

4 音量調整ツマミを回して、音量を調節します。

5 低音をより強調したい場合はBBS(低音強調)ボタンを押します。※P8 BBS(低音強調)機能について参照

6 ラジオを切るときはファンクションスイッチをテープ[電源切]の位置にしてください。

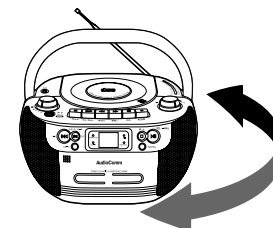
重 要

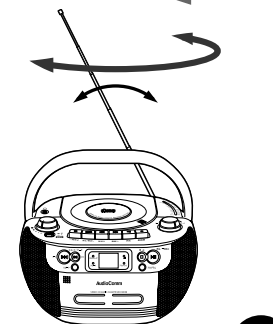
テレビの近くでAMを受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像がみだれることがあります。このようなときは、本機をはなしてご使用ください。

前 面

左側面　右側面

よりよく受信するために

AM放送を聴くときは

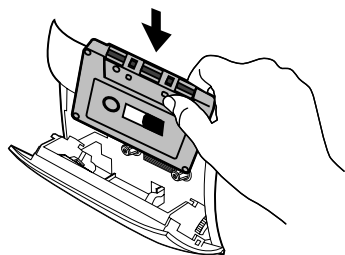
◆アンテナが内蔵されていますので、一番良く受信できる方向に本体を向けます。

FM放送を聴くときは

◆ロッドアンテナを伸ばして一番良く受信できる方向にロッドアンテナを向けます。

CDからテープに録音するには

1 左側面にあるファンクションスイッチをCDの位置に合わせます。

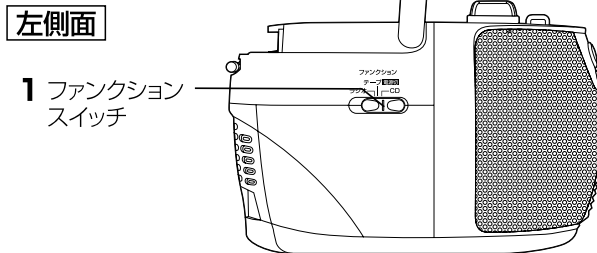
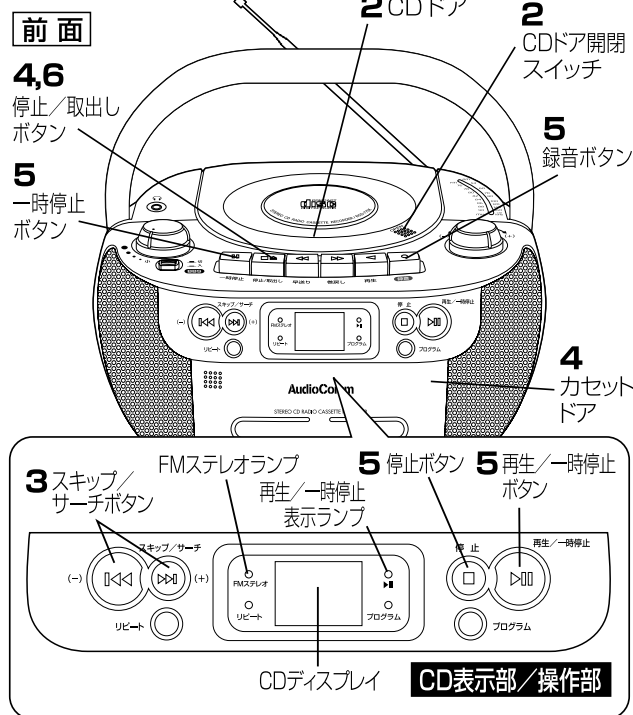
2 CDを入れます。（レーベル面を上にします）

3 録音したい曲を選びます。

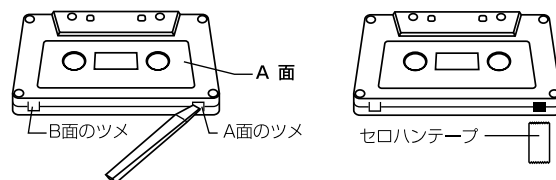
4 停止／取出しボタン（■▲）を押しカセットドアを開けます。録音したいテープをテープ面を上にして、録音したい面を手前にして入れます。

※カセットテープの両端のリーダーテープ部分（透明テープ部）は録音できません。録音前にこの部分は送っておきましょう。

5 カセットの録音ボタン（●）を押すと、カセットの再生ボタンも同時に下がり、録音がスタートします。
※CDは自動的にスタートします。

・録音を一時止めるときは、一時停止ボタンを押します。
・再生中の音を聞きながら、録音できます。

6 録音が終わったら停止／取出しボタン（■▲）を押して、テープ走行を止め、ファンクションスイッチをテープ［電源切］の位置にして、電源を切ります。
※録音レベルは、自動調節で一定に録音されますので、録音時に音量調整ツマミを操作しても録音には影響がありません。

◆録音、再生中は電源を切らないでください。故障の原因となります。

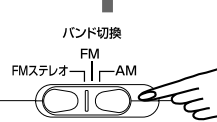
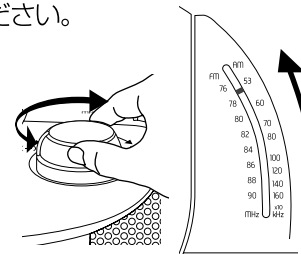
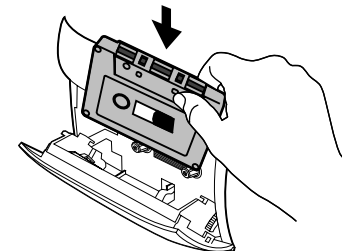
◆誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンは押せません。無理に押すと故障の原因となります。（誤って折ってしまったり、再び録音したいときは、セロハンテープなどで穴をふさぐと録音できるテープに復元します。）

A 面
B面のツメ
A面のツメ
セロハンテープ

◆テープが入っていない状態では、録音ボタンは押せません。

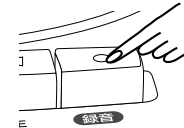
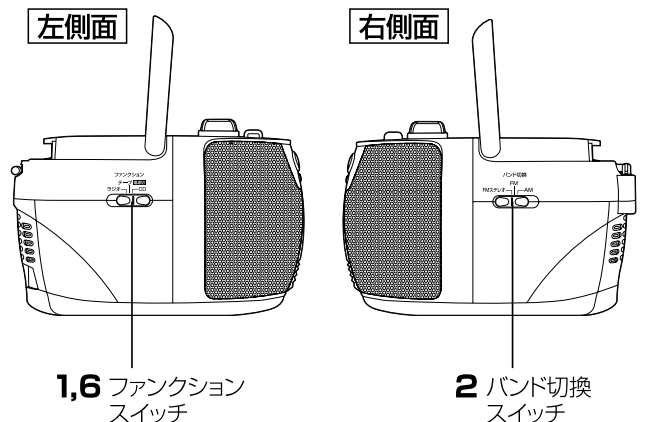
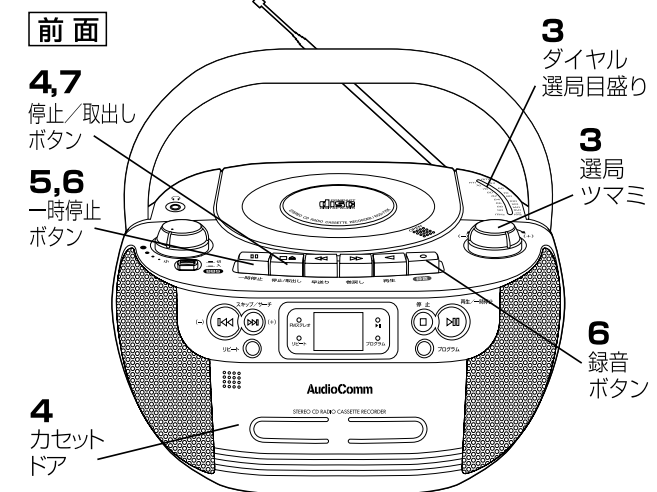
◆テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。

ラジオからテープに録音するには

1 左側面にあるファンクションスイッチをラジオの位置に合わせます。

2 右側面にあるバンド切換スイッチで、AM、FMまたはFMステレオを選びます。
※バンド切換スイッチは、各バンドの中間に止まらないよう確実に切換えてください。

3 録音したい放送局を、右側面にある選局ツマミを回して選びます。

4 停止／取出しボタン（■▲）を押しカセットドアを開けます。録音したいテープをテープ面を上にして、録音したい面を手前にして入れます。

※カセットテープの両端のリーダーテープ部分（透明テープ部）は録音できません。録音前にこの部分は送っておきましょう。

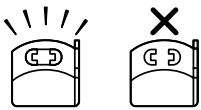
5 カセットの一時停止ボタンを押します。

6 カセットの録音ボタン（●）を押します。カセットの再生ボタンも同時に下がります。もう一度一時停止ボタンを押すと、録音が始まります。

7 録音が終わったら停止／取出しボタン（■▲）を押して、テープ走行を止め、ファンクションスイッチをテープ［電源切］の位置にして、電源を切ります。
※録音レベルは、自動調節で一定に録音されますので、録音時に音量調整ツマミを操作しても録音には影響がありません。

お手入れのしかた

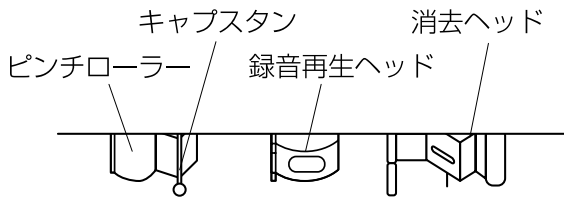
※お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池をはずし、電源が入らないようにしておいてください。

ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ホコリなどが付着してよごれてきます。よごれがひどくなると、

●音質が悪い
●音が小さい
●録音できない
●前の音が消えないで残る

等の症状がでます。定期的にヘッド部を清掃してください。

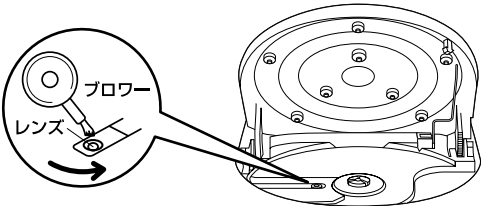
ヘッド部の清掃

カセットドアを開け、別売りのクリーニングキッドでヘッドやピンチローラー、キャプスタンの清掃をします。

綿棒にクリーナー液などをしみ込ませヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどのよごれをふきとります。なお、内部についたクリーナー液が十分に乾いてからテープをセットしてください。

ヘッドの消磁

長い間本機を使っていると、ヘッドが磁化されて高音が聴こえにくくなったり、雑音が増えることがあります。このようなときは、ヘッドを市販の消磁器で消磁してください。
なおカセットタイプの消磁器をお使いになるときは、必ず再生ボタン（◀）のみを押し込んで消磁してください。
詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。
●本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

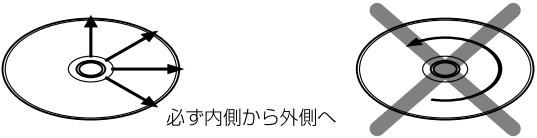
CDプレーヤーのレンズの清掃

レンズの汚れは、音とびなど演奏ができなくなる原因になります。CDぶたを開け、図のようにレンズをクリーニングしてください。
●ほこりなどは市販のクリーニングキットのブロワーを使って、ゴミなどをはき出してください。

●万一指紋などがついているときは市販のレンズクリーナーをお使いください。

キャビネットの清掃

●キャビネットやパネル操作面が汚れたら、柔らかい布でからぶきしてください。
汚れがひどいときには、水で布をしめらすか、中性洗剤を少し布につけてふき、あとはからぶきしてください。
●電源コードのACコンセントに挿す側のプラグにほこりがたまると発火する危険があります。
プラグも時々掃除してください。

コンパクトディスクのお手入れ

演奏する前に、演奏面についたほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布でふきとってください。必ず内側から外側にふいてください。

●シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーやスプレー静電防止剤は絶対に使用しないでください。
●キャビネットやパネル操作面をシンナーやベンジン、アルコールなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。
●他の洗剤等をお使いになるときは、その注意書に従ってください。

故障かなと思ったら

	症 状	チェック項目
共通部	電源が入らない	電源コードがはずれて（ゆるんで）いませんか。
		乾電池は正しくはいっていますか。
		乾電池が消耗していませんか。
	正常な動作や表示をしない	電源をすべて抜いてから表示が消えたのち、再度電源を入れてみましたか。
	音が出ない	音量が最小になっていませんか。
		ヘッドホンジャックにヘッドホンが差し込まれていませんか。
カセットデッキ部	カセットが入らない	逆向きに入れようとしていませんか。
	テープが走行しない	一時停止ボタンを押していませんか。
	テープが機械に巻きつく	ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。
		テープがたるんでいませんか。
		カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	テープ走行が不安定	テープがたるんでいませんか。
		乾電池が消耗していませんか。
	雑音がひどい、音が震える、音とびがする	乾電池が消耗していませんか。
		ヘッド部が汚れていませんか。
		テープがたるんでいませんか。
	録音ボタンが押せない	カセットが入っていますか。
		カセットの誤消去防止用ツメが折れていませんか。
		カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	録音できない	ヘッド部が汚れていませんか。
	前の録音が完全に消去されない	消去ヘッドが汚れていませんか。
	テープの音が出ない	ファンクションスイッチがテープ［電源切］になっていますか。
CD部	CDの演奏が始まらない	CDが裏返しに入っていませんか。
		CDがひどく汚れていませんか。
		規格外のディスクが入っていませんか。
		レンズがひどく汚れていませんか。
		CDドアがしっかりと閉まっていますか。
		ファンクションスイッチがCDになっていますか。
		乾電池が消耗していませんか。
	CDの音が出ない	一時停止状態になっていませんか。
	CDの音がとぶ	結露状態になっていませんか。
		レンズがひどく汚れていませんか。
		強い振動を与えていませんか。
		CDに大きな傷やひどい汚れはありませんか。
ラジオ部	ラジオに雑音が入る	近くで携帯電話を使用していませんか。
		テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。 またテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れる事があります。 このような時は本機をテレビから離してください。

主な仕様

カセット部	
トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
録音方式	直流バイアス
消去方式	マグネット消去
テープ速度	4.75cm/秒
早送り・巻き戻し時間	約170秒（60分テープ）
周波数特性	125Hz～6300Hz（ノーマルテープ）

CD部	
チャンネル	2チャンネル
S/N比	50dB
ワウ・フラッター	測定限界以下

ラジオ部	
受信周波数	FM 76～90MHz
	AM 530～1605kHz
アンテナ	FM ロッドアンテナ
	AM 内蔵フェライトバーアンテナ

共通部		
実用最大出力	1.2W＋1.2W（RMS）	
消費電力	14W	
出力端子	ヘッドホン／（ステレオミニジャック）	
電源	AC100V 50/60Hz	
	DC9V（単1形乾電池6個）	
寸法	250（幅）×140（高）×215（奥行）mm（突起物含む）	
質量	約1900g（乾電池含まず）	
乾電池の寿命（目安）	マンガン乾電池の場合（音量は中位）	アルカリ乾電池の場合（音量は中位）
	ラジオ受信時　約80時間	ラジオ受信時　約240時間
※乾電池の種類によって異なります	テープ再生時　約50時間	テープ再生時　約150時間
	CD再生時　約30時間	CD再生時　約80時間
付属品	電源コード、取扱説明書、保証書	

※改良の為、予告なく仕様を変更する場合があります。